

公開シンポジウム ～学生・研究者・市民の発表会&交流の場～ 霞ヶ浦流域研究2026

2026年

3月7日(土)

会場：レイクエコー（茨城県鹿行生涯学習センター）1階 大研修室
12：30～16：00（受付開始 11：45）
参加費無料，参加登録 3/2（月）まで（定員先着100名）
参加登録はホームページから（<https://www.cwes.ibaraki.ac.jp/>）



プログラム

*プログラムや発表者（共同発表者を含む）の詳細は、茨城大WEBでご確認ください。

12:30 開会

12:35 口頭発表（前半）

- ・霞ヶ浦の厄介者を食の未来へ～アメリカナズ食資源活用の可能性～ 石崎巧大・薄井美愛・藤松 陸（清真学園高）
- ・北浦流入河川におけるトウヨシノボリ稚魚の遡上生態と生息環境特性 加藤樹音（茨城大）
- ・夏季の高水温がワカサギ資源に与える影響 山崎幸夫（茨城県水産試験場）

13:20 休憩

13:30 口頭発表（後半）

- ・霞ヶ浦における水質の長期的変化 藤岡裕真（茨城県霞ヶ浦環境科学センター）
- ・霞ヶ浦における気候変動による水質応答と機械学習を用いた水質予測技術の開発 五味巧真（茨城大）
- ・湖況変動がもたらす霞ヶ浦（北浦）堆積物中の微生物生態系によるメタン生成・酸化の変動 正田岳志（茨城大）
- ・帰還困難区域の山地小河川に生息するユスリカ幼虫が関与する溪流生態系内のCs-137の動態 神 龍聖（茨城大）

14:45 ポスターセッション&意見交換会

16:00 閉会



参加登録は
コチラから

ポスターセッション 14題

*コアタイム 奇数番号 14:45-15:15、偶数番号 15:15-15:45

1. 霞ヶ浦沿岸湿地生態系における植物の競争と共存 / 2. 茨城県つくば市全域を対象としたナガミナゲシ (*Papaver dubium*) の目視調査による空間的可視化と出現状況の傾向 / 3. 茨城県内のデータ補完を目的とした久慈川水系の河川水電気伝導率調査 / 4. 北浦湖底堆積物を用いてメタン集積培養したC1化合物資化性細菌の分類同定 / 5. 霞ヶ浦(北浦)のユスリカ群集動態に影響を及ぼす要因について～ネオニコチノイド系農薬を用いた室内実験からの考察～ / 6. 霞ヶ浦におけるネオニコチノイド系農薬の存在実態について / 7. 帰還困難区域の山地溪流におけるサワガニの放射性セシウム濃度の実態と室内実験による半減期の推定について / 8. 堆積物供給によるウェーブリップルの平坦化:底面軌道最大流速と堆積速度の影響 / 9. 北浦流入河川周辺における湖底堆積物の粒度分布の特徴 / 10. 霞ヶ浦におけるオオタナゴの二枚貝利用 / 11. 茨城県川又川におけるギバチの生活史と体長組成の時空間動態 / 12. 茨城県におけるボウズハゼの生息状況および産卵の確認 / 13. 五浦海岸の魚類相 / 14. 湖沼ヨシ帯の魚類相モニタリングの効率化を目的とした小型定置網設置法

主催：茨城大学地球地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション，霞ヶ浦流域フィールドコンソーシアム
問い合わせ先：TEL: 0299-66-6886, E-mail: suiken@ml.ibaraki.ac.jp

*当ステーションは、文部科学省により認定された国内初の湖沼の教育関係共同利用拠点です。

